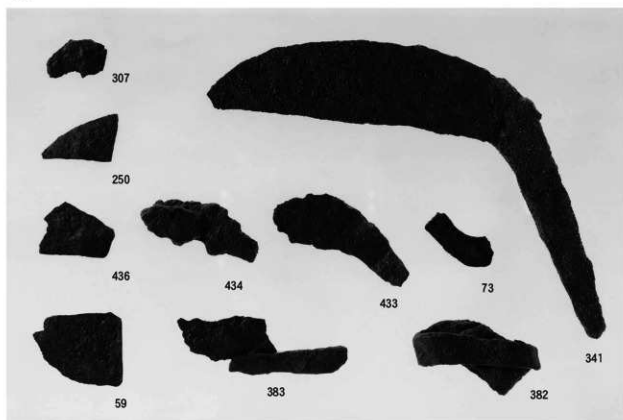
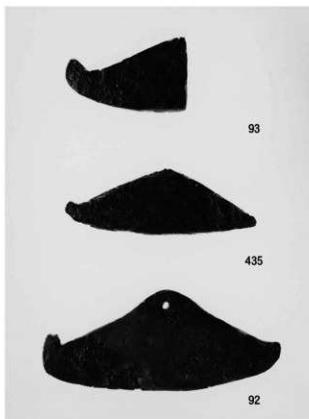


小刀

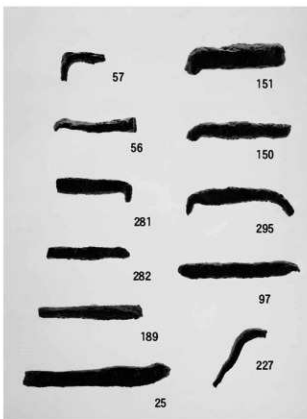


鎌

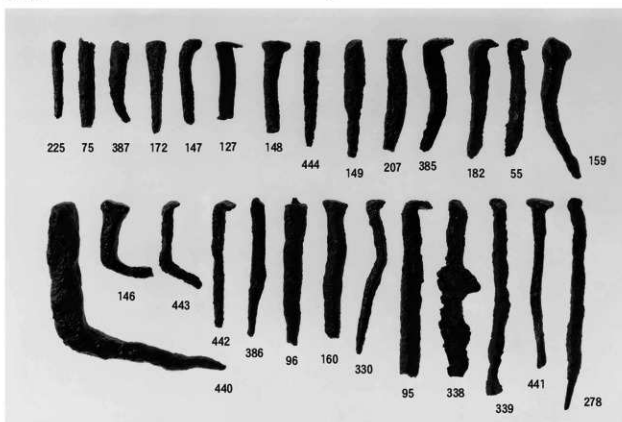




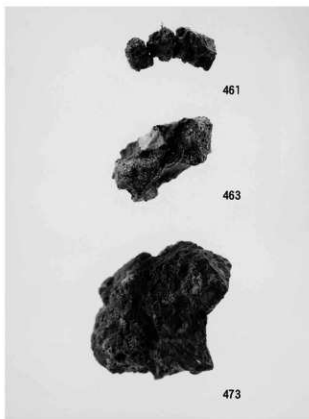
火打金



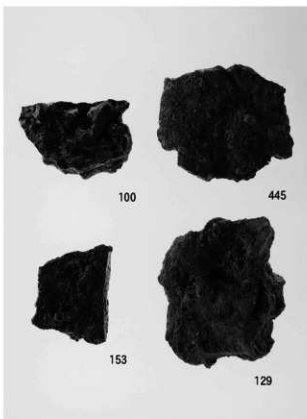
鏃



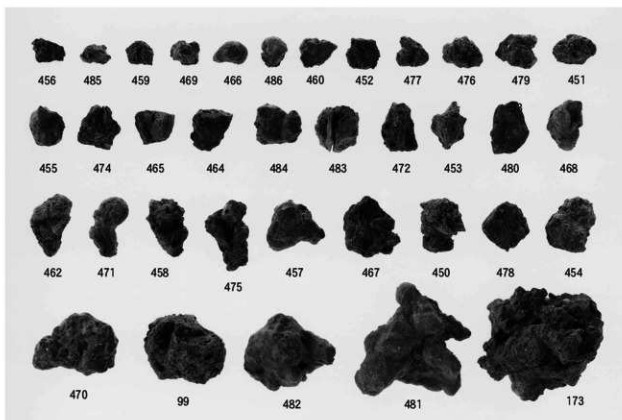
釘



羽口



椀形滓



鉄滓



工事完成後 下茅原遺跡を望む(南から)



工事完成後 東沖遺跡を望む(西から)

# 報告書抄録

ふりがな	しもちはらいせきだいらいちじ・だいにじ、ひがしおきいせきはつちようきょうこうこく							
書名	下茅原遺跡(第1次・第2次)、東沖遺跡発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	303							
編著者名	(編集) 酒井巳紀子(本文) 小山憲一、伊藤裕偉、木本勝己、西口剛司、酒井巳紀子、 藤バレオ・ラボ、關元興寺文化財研究所(遺物写真) 小山憲一、酒井巳紀子							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 Tn 0596-52-1732							
発行年月日	西暦2009年3月31日							
ふりがな	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもちはらいせき 下茅原遺跡 (第1次)	まつかかしちはらちようなかた 松阪市茅原町字中田内	204	a402	34° 29' 41"	136° 28' 38"	20040819 ～ 20041203	3,145㎡	平成16年度中山間総合整備事業(茅広江地区)
しもちはらいせき 下茅原遺跡 (第2次)	まつかかしちはらちようなかた 松阪市茅原町字中田内	204	a402	34° 29' 26"	136° 28' 53"	20050601 ～ 20050823	1,832㎡	平成17年度中山間総合整備事業(茅広江地区)
ひがしおきいせき 東沖遺跡	まつかかしちはらちようひがしおき 松阪市茅原町字東沖内	204	a256	34° 29' 22"	136° 29' 11"	20060517 ～ 20060929	3,480㎡	平成18年度中山間総合整備事業(茅広江地区)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		出土遺物重量	特記事項	
しもちはらいせき 下茅原遺跡 (第1次)	集落跡	平安時代末期～室町時代	掘立柱建物、土坑、溝、竪、自然流路、落ち込み	土師器、陶器、陶磁器、小刀、鎌、銭貨等		38.17kg		
しもちはらいせき 下茅原遺跡 (第2次)	集落跡	縄文時代、平安時代末期～室町時代	土坑、ピット	縄文土器、土師器、鉄鏝等		1.6kg		
ひがしおきいせき 東沖遺跡	集落跡	鎌倉時代～室町時代	掘立柱建物、土坑、石組遺構、溝、墓等	土師器、陶器、青磁、白磁、小刀、鎌、火打金、釘、銭貨、鉄滓等		164.85kg		
所収遺跡名	要約							
しもちはらいせき 下茅原遺跡 (第1次)	下茅原遺跡は、柳田川中流の左岸側に位置する。A地区は調査区北側に遺構が集中的に見られ、13世紀代の墓や15～16世紀代の掘立柱建物跡が確認され、南端には旧河道が確認された。墓は石で周囲を囲ったものと石を数個だけ置いたもの2種類あり、副葬品と考えられる土師器鍋・皿や小刀などが出土した。B地区は11～12世紀代の旧河道や土坑が確認された。この旧河道はA地区の南端で確認された旧河道に接続するものと考えられる。							
しもちはらいせき 下茅原遺跡 (第2次)	2次調査区は、下茅原遺跡の南東側に位置する。検出した遺構は少ないものの、土坑や柱穴を確認した。遺物は、縄文土器や土師器、陶器、鉄鏝が出土した。遺構に伴う遺物は少なく、大半は流れ込んだものと考えられ、遺構密度の希薄さも考慮すると集落の縁辺部にあたるものと考えられる。							
ひがしおきいせき 東沖遺跡	東沖遺跡は下茅原遺跡の南東約0.4kmに位置する。13世紀～14世紀を最盛期とした溝で囲まれた屋敷地を確認した。溝囲いの屋敷地としては、県内で最も古い事例にあたる。屋敷地には、掘立柱建物や土坑、墓等が見られる。また、当遺跡内からは、鉄製品や鉄滓が出土しており、屋敷地内で鍛冶行為が行われていた可能性も示唆される。							

---

三重県埋蔵文化財調査報告303

下茅原遺跡(第1次・第2次)、東沖遺跡  
発掘調査報告

2009(平成21)年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷 (有)山文印刷

---